

7月11日(月曜日)

Sant Ponsa 錨地を 10 時 30 分に出港して 15NM 先の Palma 港 Real Club Nautico De Palma(RCNP)に 14 時に入港する。Sant Ponsa は静かな泊地で魅力があり去り難かったが、明日から日比谷夫妻が約 3 週間乗艇するので、その準備もあり Palma に移動する。



Palma 港には 9 つのマリーナがあり、ここ RCNP のマリーナだけで 850 艇のバースがある。さすが、バレアレス諸島の中心だけあって、メガヨット、ボートが並んでいて艇の大きさに目が麻痺してしまうほどだ。マリーナには立派なクラブハウスがありプール、ジムまで備わっている。

陽射しが強く、暑いのと 4 日間の錨泊の後だったので舳った後、早々と棧橋の上にあるバーのテラスでビールを飲む。一休みの後、艇の水洗い、清掃を始めたが暑い中の水作業は心地よい。今までマリーナで着いた艇が直ぐ水洗いを始めるのがやっと判った。錨泊中は水が自由に使えないので、一番やりたかったことをすぐ始めているようだ。

夕方作業が終わってから、プールでひと泳ぎしてマリーナの近くのイタリアンレストランで食事する。お腹がやけに空いていると思ったら、お昼を食べてなった。

海老とほうれん草のクリーム煮、サラダとサーロイン・ステーキを食べる。古い町並みの中のレストランだったが味付けがよく、美味しかった。

夜は、錨泊とは違い電源が入り、久しぶりにコンピュータが使えるので溜った仕事を艇内でやり、夜中の 3 時に就寝する。

7月12日(火曜日)泊り

マリーナの係留で電源が使えるようになったので、朝食はいつも通りトーストを食べれた。

シーツ、タオルのクリーニングを頼もうと思ってオフィスに訊きにいくと、ここオ

フィスで手配してくれるとのこと、マリナー自体が大きく、歩く距離が長いので助かる。また、桟橋にミニスーパーがありその脇にはカフェテリアもあり便利である。

ビルジポンプの調子が悪いのと、真水がビルジに溜まるので修理を頼む。ビルジポンプのほうはポンプの故障でなく排水管が詰まっていた。また、真水はシャワーの取付口が甘くなっていて、そこから漏水していた。真水の件はなかなか原因が究明できないでいたが、分かってほっとする。

今日、日比谷夫妻が到着するので、市場で車エビ、ヤリイカ、野菜、そしてカバを買う。

お昼は、市場で買ったヤリイカを使いペペロンチーヌで頂いた。

18時に日比谷夫妻が空港に着く予定なので、迎えに行く。久しぶりにロッコ(日比谷夫人の愛称)の笑顔にお会いする。マリナーまではタクシーで15分くらいの近い距離で、なおかつ、艇を着けてあるボンツーンの近くまでタクシーが入れたので助かる。

長旅にもかかわらず、マコ(日比谷氏愛称)ロッコとも元気で到着。久しぶりの再会で会話も弾み、船上でウエルカム・ディナーを始める。カバで乾杯して、マッシュルームの詰め物、ハモンイベリコ、サラダ、メインは車エビのガーリックソテーとヤリイカのパセリの炒め物を頂く。

7月13日(水曜日)泊り

昨日は終日曇りだったが、快晴のいいお天気になる。ゆっくり朝食を食べてから、パルマの名所観光に行く。昔アラブの要塞だった建物を14世紀にマヨルカ王によって宮殿に改修されたアルムダイナ宮殿、マヨルカ島をイスラム教徒から奪回したのちに建設されたカテドラルを見学した。このカテドラルの中には、ガウデイの作品による天蓋飾りが祭壇に飾られていた。スペインを廻っていて感じるのが、建物、橋等を見ていると機能より芸術性を重要視している。さすが、ピカソ、ダリ、ミロ、ガウデイ等を輩出している国だと思う。

ベルベル城まで行こうとしたが、市場が閉まるといけないので諦めて市場に行き、果物、野菜、肉の買い物をする。

帰りにバルを探して定番の生ビールで喉を潤し、クラブハウスとクロックムッシュを食べる。2つを4人でシェアしたが、十分な量であった。味も満足だった。

午後3時頃に船に戻り、体を冷やしにヨットクラブのプールに行き、ひと泳ぎする。夜は、市場で買った豚肉の肩ロースをカレーに入れて頂く。

7月14日(木曜日)泊り

今日は、前に錨泊したサンタ・ポンサの泊地に行く予定だったが、雲行きが悪いので出港を取止め、もう一日、観光をすることにする。ショパンがジョルジュサンドと恋の逃避行をしたバルデモサのカルトウ八修道院に行くことにする。往きは100年前

に開通したというクラシック・トレインで、島の山を越えてソレイルまで行く。途中、アーモンド、オリーブ、レモン果樹園を車窓に見ながら山岳地帯ではトンネルをくぐり田園風景が見ることができ楽しい電車の旅であった。ソレイルからタクシーでバルデモア迄行き、ショパンが「雨だれ」を作曲してジョルジュサンドが「マヨルカの冬」の作品を残した修道院、近隣を散策する。木陰が多く周りの景色、雰囲気も心地良く、スケッチを得意とするマコはスケッチしたかったようだ。修道院の前の木陰にテラスのあるレストランを見つけ、お昼を食べる。17時30分発のバスでパルマに戻り、デッキの水洗いを、窓を開ける前にする。

夕食は、生ハムで一杯やってメインはマコが持ってきてくれたソーメン、アユの甘露煮、ご飯とジャコ山椒、明太子、キューちゃんて頂く。久しぶりの日本食を堪能する。夜、私は食べ過ぎでお腹が痛くなり、胃薬のお世話になる。

7月15日(金曜日) Lapita 24NM

私はお腹の調子が悪く、朝食を抜く。今日は、20NM先のLapitaに9時、出港する。



マヨルカ島を反時計回りで廻ることにする。南東の7～8mの良い風になり、クローズでタックしながら、島の景色を遠望しながら13時45分にClub Nautico La Rapittaに到着する。

到着前に、ジブセールがトップから突然落ちる。シャックルが取れたようだ。取敢えず、少しジブセールが落ちたままファーリングする。

着いてから、私は熱っぽくなりダウンして休む。体温を測ったら38.5度あった。熱さましを飲んで、そのまま休む。

皆さんは、ポークのスペアリブ、野菜のオープン焼を楽しんだようだ。

7月16日(土曜日)泊り

朝、やはり熱がある。日比谷夫妻を迎えて迷惑をかけて申し訳ない。ただし、よく知

った仲なので、私抜きでも十分に楽しんでくれているようだ。感謝である。

今日は、病院に行くことにする。オフィスで病院を訊いて行ったが、土曜日で休み、幸い、近くの薬局が開いていたので、他にやっている病院があるか訊いたところ、町に24時間体制の病院があるとのことタクシーを呼んでもらい行く。ドクターの診断では食べ過ぎによるものとのこと、多分、日射と疲れと重なって熱も出たものと思う。ドクターは、十分に太った女医さんだったが、ダイエットするように注意された。薬の処方箋を頂き、薬局に寄り艇に戻り、早速、薬を呑み休む。その間、皆さんはマリナーの横にある海水浴場に行って、日光浴を楽しんでいた。

16時頃から薬が効いてきて、平熱に戻り体が楽になる。そうこうしているうちに海水浴グループが帰着、シャワーを浴びてジントニックを美味しく呑んでいる。

隣にベルギー艇が入ってきた。お嬢さんが大学生ぐらいの7人の家族で、母親はじめ皆さんフレンドリーで、お嬢さんが私の鬚顔が気に入ったと、写真を撮ってくれた。絵にするそうだ。

夜は、ここのお祭りがあるとのことで、皆さん20時過ぎに出かけるが、暫らくして、たいした祭りでなかったようで帰ってきた。

マリナーの堤防に上がり、夜中12時から始まった花火を見学する。

7月17日(日曜日) Cala Llonga 17NM

朝、やっと私が食事を摂れるようになって、平常の体調に回復した。

女医さんに感謝する。

ファラーの修理をしようと、艇に用意してなかったボースンチェアーをショップに買いに行ったが、あいにく日曜日でお休み、仕方ないので隣のベルギー艇に借りる。とても親切で「娘ならモンキーのようにマストへ登れるよ」といつてくれたが、「オールドモンキーが登る」とさすがに遠慮した。

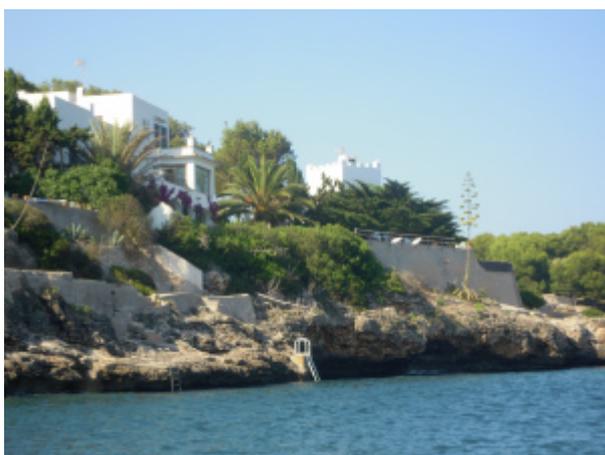
マストの上に登り、見たところセールとファラーとのシャックルが取れていたのので、新たに取付ける。簡単な作業のはずだったが、ちょっとしたところででこずり、修理に午前中かかる。

12時45分に出港してCala Llongaを目指す。南の良い風で半島の先まで片上りで7NMほど走り、その後、フリーで南南東7~8mの風を受けて7KT強のスピードで快調に走る。

カラロンガに近づくと、手前にも入江が見えてきて数隻の船が入江に錨泊している。この辺りからは入江が多くなり、何処に入るか選ぶのが楽しみである。

カラロンガの入江は、奥が深く入江の中に最初2つの入江があり、そこが錨泊地になっている。

入江の両サイドは高級別荘で、庭の前はプライベートの梯子があり、そのまま海に通じている。



そこを抜け、さらに奥まったところに Marina de Cala d' Or がある。電話、無線も通じなく、給油用ポンツーンに 16 時 05 分に舫う。オフィスまで行くが、なんと日曜につきお休み、ここは夏のマリーナだよと云いたくなる。

そうこうしているうちに、マリーナのスタッフがバイクできて、ポンツーンを案内してくれた。

オフィスは休みで、現場のスタッフだけが働いているようだ。指定されたポンツーンが一番奥だったが、両側にレストラン、ショップが並び、自然と調和したきれいなマリーナだ。

一番奥に入り、スターン着けをしてから、ゴムボートを降ろし入江巡りに出かける。沢山の豪華別荘が並び、目の保養になる。

デッキを水洗いしたのち、マコと私はコックピットで一杯、ロッコと悦子は艇から見つけたブテックに買い物へ。

夜は、チキンのフルーツソース煮、ヒメントのタパス、グリーンサラダ、生ハム、パン、ご飯で頂く。私もやっと食欲が出てきて、ワインも頂いた。チキンのフルーツソースは、ブドウとモモだったが、鶏ヒレ肉とマッチングして美味であった。

丁度、女子ワールドカップ決勝戦だったので、インターネットで一喜一憂しながら食事した。日本の友人からメールが入り、日本の優勝の一報が入り大喜び。

7月18日(月曜日)

朝食後、町を散歩する。マリーナは自然の入江をそのまま利用して作っており、完全に風波はプロテクションされている。その周りに瀟洒なレストランが立並び、少し歩くと、ショッピングアーケードと町のレストラン街がある。この町は完全な観光地で、別荘や貸アパート、ホテルが占めている。

ロッコ、悦子はそれぞれお気に入りのショートパンツ、薄い麻のワンピースを買ってご機嫌であった。

もうひとつの入江にここから通じているので、浜辺まで行きひと休みする。ここは岩に挟まれた中の狭い砂浜だが、家族連れの海水浴客で賑わっていた。

お昼は、雰囲気のある街中のレストランで、小鯛のフライ、カラマリのローマ風、スペイン風クリームコロッケと海老のガーリックソテーを、4人でシェアしてピント・デ・ベラーノと生ビールで頂く。

大変シンプルな料理だが、素材が新鮮なせいか、またオリーブオイルが美味しいせいか、どの店も外れがなく美味しい。

午後は、艇で各自本を読んだり、シエスタしたり、時間をむさぼる。

日が西に傾いてから、ジントニックを呑み始めるが、岸壁が観光客の通る所で日の丸が珍しいせいか、艇を覗いたり、また話しかけてくれる人もいる。



夕食は、定番になってきたズッキーニの詰め物と、ローストチキンとサラダを頂く。鶏料理が多いが、こちらの鶏は脂が少なくサッパリして美味しい。

12時過ぎにバタンキューで眠りにつく。

(続く)